

# 峠

河井継之助記念館  
友の会会報

第20号

2016.11

編集・発行  
河井継之助記念館  
新潟県長岡市長町1丁目1675-1  
〒940-0053  
Tel.0258-30-1525  
Fax.0258-30-1526

頒布価：50円（送料別）

## 父祖の地長岡に引っ越して

長岡牧野家 牧野 忠慈



武者行列を先導する牧野さん

した。牧野ファミリーが長岡に  
いられることを嬉しく思ってお  
ります。

河井継之助については子供の  
ころから存じてはおりました。  
某漫画にガトリング砲が登場し  
たときは継之助のガトリング砲  
かな？と考えておりました。牧  
野家の菩提寺である東神田の栄  
涼寺。同じ墓地の奥に継之助の  
お墓があります。

長岡は河井継之助を含め小林  
虎三郎や三島億二郎、山本五十  
六など旧長岡藩の著名な偉人も  
多く、ただいま勉強中です。

秋の米百俵まつりには鎧を装  
着し勝鬨を上げます。唯一殿様  
つぼく振る舞える行事で大変嬉  
しく思います。幼少時から知っ  
てくださっている実行委員の星  
貴様におほめいただけるのもう

れしく思います。

「長岡って何があるの？」歴  
史があると皆様が仰います。そ  
の大切な歴史を紹介する河井継  
之助記念館が多くの人に知ら  
れ、長岡史を知る良き場所とな  
ることをお祈りいたします。  
（必要があれば、助太刀いたし  
ます。）

いづれ長岡牧野家の十八代目  
を継ぐ身。父のように親しみ深  
く、母のように教養のある当主  
になるよう努力いたします。会  
員の皆様、市民の皆様のご指導  
ご鞭撻をよろしくお願い申し上  
げます。

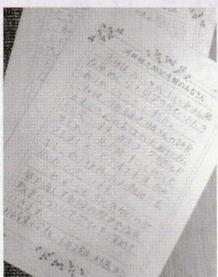


武者行列・馬上の牧野さん

## 峠抄

とうげしょう ⑱

記念館には校外学習で地元  
の小中学生が多数訪れます。  
長岡の歴史や偉人を知る活動  
の場として当館を始め、山本  
五十六記念館、戦災資料館等  
を巡ります。その後には、子  
どもたち一人一人から丁寧に  
綴られたお礼の手紙を受け取  
ることがあります。「正しい  
と思ったことをすぐしてい  
て、ほととはまったく反  
たいですごいと思いました。」  
「決めたことは最後まであき  
らめないところが大好きで  
す。」継之助の生き様がそれ  
ぞれの胸に響いていることを  
感じる嬉しいひと時です。過  
去からのメッセージを受け継  
ぐ子どもたち。そんな彼らの  
心の成長に少しでも寄り添え  
るなら嬉しいばかりです。そ  
していつの日か、継之助のよ  
うな豪傑が生まれることを心  
待ちにしているのです。（金澤）



牧野忠慈（まきのただしげ）プロフィール  
平成22年2月東京生まれ。平成6年より長岡市に在  
住。平成18年関東学院六浦高等学校在学中に長岡  
技術科学大学創立30周年記念作文コンクールにて  
優秀賞を受賞。平成22年「D.C.ロボコン2011  
0」に東京電機大学代表として出場。平成26年東京  
電機大学大学院 未来科学研究所 ロボットメカト  
ニクス学専攻卒業。同年4月より長岡市の日本精  
機機に勤務。長岡市に在住。現在に至る。

## 『峠』の越後長岡を歩く ⑬ 番外編

連載

司馬遼太郎の『峠』に描かれている「越後長岡」の風景を現在に訪ねるシリーズ。今回は番外編として13号でも取り上げた朝日山をじっくり歩いてみました。

●『峠』下巻・新潮文庫306ページより

「そういえば、長岡藩兵の服装は継之助と同じ平服なのである。官軍のうち薩長勢は日式洋服を着ているし、官軍のうちの他の藩は戦国時代のような具足姿でいる者もあり、とにかくも頭だった者は陣羽織だけを着て、一応の威儀はこのえていた。」

「松蔵、ナオカ(長岡)はこれだええ。金がないでな」

そのかわり武器はいい、士気もみごとにあがっている、と継之助は言い、「それが証拠にあれをみる」と、朝日山で展開している攻防戦を指さした。平装の長岡兵が、制服姿の薩長兵を追いおとしているのである。

慶応四年(一八六八)五月十一日に榎峠の戦いを制した東軍は、朝日山に布陣する。この陣地の構築を指導したのは継之助だった。人夫を使い造り上げたその陣地は山頂にあったため、麓に布陣していた西軍には不利な戦いとなっていた。

奇兵隊参謀時山直八は、山県狂介(のちの有朋)の援軍を待

ち朝日山山頂を衝こうと計画する。しかし時山は結局その援軍を待たずに濃霧の中、断崖をよじ登り本陣目掛け攻撃を仕掛けた。途中一部隊を破り本陣までも、雷神隊隊長立見鑑三郎の率いる桑名藩兵らによる銃撃と槍隊の激しい抵抗にあい、同隊銃手の三木重左衛門に狙撃され戦死した。西軍は時山の亡骸を運ぶ間もなく、首級のみを携えて総退却することとなり、その際に気が動転し溪谷から転げ落ち命を落とす者もいたという。

熾烈をきわめたこの戦いは、西軍側の死傷者四十六名、東軍側の死傷者九名の激戦となった。これが「朝日山の戦い」である。

六月八日、天気も良く陽射しの照りつける中、私たち事務局員は朝日山を訪れました。中越地震で山道が崩れ閉ざされていました。今ではすっかり舗装され復興し、山頂まで車で登れるようになっています。

頂上まで登る途中の山道や頂

上には東軍兵士の墓が点在しています。これは朝日山の戦いで戦死した会津藩兵の遺体を明治政府が回収・埋葬することを禁じたため野晒しになっていったものを後年、福生寺住職や浦柄村の人々が手厚く葬り、墓石を建てたものです。

旧会津藩士の伴百悦が身分を落とし同士の埋葬作業をした等の話は聞いたことがあります。が、実際に点在する墓石を見ると当時の取り締まりの厳しさが見

目に浮かぶようです。

頂上に着くとそこにはフランス兵法を基に築かれた塹壕跡があります。土塁で自軍兵士を守り、溝は敵兵を引つけ掛けて攻撃を加える為に使用されていたらしく、近代の塹壕戦とは違う塹壕の使い方に驚きました。

また頂上にはこの他にも東軍の野営場・砲壘跡・時山直八の戦死に関するパネルや展望台を兼ねた展示室もあり、朝日山で見つかった弾丸や砲弾が展示さ

れている他、展望台に上れば信濃川や榎峠が望めます。

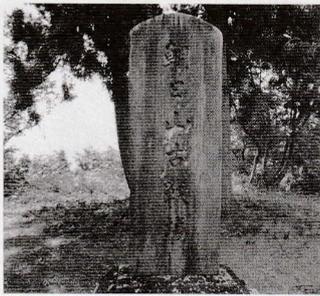
最後に浦柄神社に寄った私たちは、この地で散っていった兵士たちの墓標に手を合わせ帰路についたのでした。

今回載せられなかった写真や逸話等はまだまだあります。是非朝日山古戦場を訪れ、その空気を肌で感じてみてください。

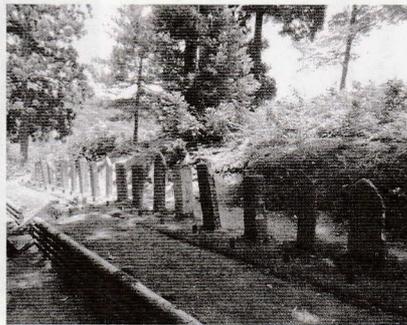
(河出)

※参考文献

「北越戊辰戦争史料集」 稲川明雄編  
「長岡歴史事典」 長岡市



朝日山古戦場石碑



浦柄神社に並ぶ墓標



朝日山道路復興記念碑



草木に埋もれた墓石



兵士戦死の場所



朝日山山頂からの眺望 信濃川・小千谷市街を望む

# 平成三十年は長岡開府四百年!!

## 長岡開府四百年記念事業実行委員会事務局

初代長岡藩主牧野忠成ただなりが長岡城主となった元和四(一六一八)年から、平成三十年で四百年になります。

この歴史的な節目の年に向け、まちの歴史、文化、伝統を見つめ直し、郷土への愛着と誇りを高めるとともに、長岡の魅力を国内外に発信しようと、平成二十八年六月、各界・各分野のメンバーによる「長岡開府四百年記念事業実行委員会」が設立されました。実行委員会内に部会を設置し、具体的な事業について検討してまいります。

百年前の大正六年(一九一七)の「長岡開府三百年祭」では、記念式典のほか、物産共進会、武術大会、飛行大会などが十日間にわたって開催され、市中は仁和賀や山車で盛り上がりました。また、市民篤志家による悠久山公園の整備など、開府三百年を契機に官民一体の取り組みもなされ、現在まで続く市民協働によるまちづくりや、長岡の経済・産業の発展に大きく寄与しました。

さて、実行委員会では開府四百年に向け、機運醸成のためのシリ



越後長岡ROOTS400 vol.1, vol.2

### 長岡開府400年PR冊子「越後長岡ROOTS400」

平成30(2018)年の長岡開府400年に向けて発行しているシリーズ冊子「越後長岡ROOTS400」。長岡の文化や伝統、精神性のルーツを長岡藩の歴史から紐解き、長岡が培ってきた「常任戦場」などの精神を全国に広めていこうというもの。5月1日発行の創刊号に続き、第2号がこのたび完成。テーマは長岡城～城はなくても夢がある～。まぼろしの天下の名城・長岡城の特徴や長岡陣城の秘話などを紹介。くじら汁や長岡花火の起源、ゆかりの地探訪記などのコラムも必見です。

●問合せ先:長岡市政策企画課  
開府400年記念事業準備室 Tel.0258-39-2395  
<http://www.city.nagaoka.niigata.jp/shisei/cate01/kaifu400/>

ーズ冊子「越後長岡ROOTS400」を刊行中です。稲川館長が代表を務める編集会議で検討を重ね、毎号のテーマを決め、会議メンバーが執筆も担当しています。常在戦場(第一号)、長岡城(第二号)に続き、編集が進む第三号のテーマは山本五十六と斎藤博。今後も、信濃川記行、司馬遼太郎の「峠」などをテーマに平成三十年まで刊行していく予定です。この冊子をきっかけに長岡藩や長岡の歴史に一層興味をもっていただいたり、理解を深めていただければ幸いです。

長岡のまちは、慶応四年の北越戊辰戦争、昭和二十年の長岡空襲と、二度にわたる戦禍により壊滅的な被害を受けました。さらに、近年では、平成十六年の「七・一三水害」、「新潟県中越大地震」など、たび重なる大災害に見舞われましたが、その都度、市民の不屈の努力で立ち上がり、まちの復興を成し遂げてきました。復興の原動力となったのは、「まちづくりはひとづくり」という人材育成の大切さを説いた「米百俵」の精神です。その根底には越後長岡藩二百五十年を一貫する「常在戦場」の精神があります。

開府四百年という歴史ある節目の年を迎えるにあたり、「長岡開府四百年記念事業」を実施し、あらたな百年のバトンを、次代を担う子どもたちに手渡したいと願っております。

## 遠方からの客人

●インタビュー⑩ 街全体が落ち着いていますね

### 末綱 隆・陽子さん



平成28年6月2日

岡の皆さん親切で、先ほども途中で会ったお巡りさんがとてもフレンドリーでしたよ。

### ●長岡花火への思い

大使在任期中、ドイツのトリアー市で長岡花火が打ち上げられるジャパンデーに招待を頂いたのですが、時間の関係で残念にも観る事ができませんでした。是非一度、長岡で観てみたいですね。(長岡市はトリアー市と姉妹都市として国際交流を行っています。)

### ●インタビュー当日の朝、自家

用車で自宅を出発されたお二人は、日本海側にはあまり来たことがなく...と。これから蓬平温泉に泊まり、明日からは鶴岡と酒田へ二泊されると、こやかにお話下さいました。とても素敵なお話で、爽やかなひとときを過ごさせていただきました。ありがとうございました。(黒田・柴田)



長岡市と姉妹関係にあるドイツトリアー市の名所・トリアー大聖堂  
photo:Wikimedia Commons

# 河井継之助はどういう人物？

## その⑱ 継之助と備中高梁

岡山県高梁市は河井継之助ゆかりの地だ。

僧良寛が修行したという玉島の円通寺から、高梁川を遡って、備中松山に着く。今はJR伯備線の備中高梁駅に着くと、そこはもう松山藩の城下町だ。何故、松山と高梁が混同しているかという、松山は城下町、すなわち侍屋敷が中心で、高梁は町人たちの住む、二つの町が同じ地にあるかららしい。明治になったら、町人(商人)の方が元気が良くなったために、高梁とかえたものだ。

勿論、徳川幕府(江戸幕府)の老中などを勤めた譜代大名板倉勝静五万石の城下町だった。高梁駅は町の入り口にあり、御城に向って一本の通りが臥牛山へのびている。駅前の正宗町、八幡町、柿木町に至ると郷土資料館や図書館がある。そこに師の山田方谷の銅像を見あげるのも良い。

高梁の人たちは、今でも方谷先生と尊称している。山口県の萩市が松陰(吉田)先生と呼ぶ

のと同じで、高梁の土風・学問をいまに伝えている。その山田方谷の松山(高梁)城下に河井継之助が至ったのは、安政六年七月十七日のことである。今の暦になおせば八月の初旬。高梁は山間とはいえ、相当暑かったに違いない。

ところが、山田方谷は城下にはいなく、高梁川を二・三里のぼった西方村長瀬に住いているという。そこまで継之助は足を延ばすことになる。

無事、対面を終えた継之助は松山城下に帰ってきて鍛冶町の武家宿の花屋に泊ることになる。花屋は長州藩の久坂玄瑞もおとずれたことがある修行人が泊る宿だ。今は跡かたもないが、たまたまいが継之助がひよっこりあらわれるような気がするのも面白い。

その宿跡の前を伊賀谷川が流れている。伊賀谷川を少しのぼると左側に幼稚園があり、その門の前に藩校有終館跡の石碑がでんと建っている。有終館は山田方谷が学頭となって藩士らの

連載



伯備線「方谷駅」



有終館跡と有終館跡にある山田方谷手植松



高梁教会 (岡山最古の教会)

高梁川。ここで方谷と継之助が別れを惜しんだ

著者や若者を教えたところである。そこでの学識が松山藩政の改革に役立つことはいままでもない。伯備線をまたいで坂のうえに頼久寺がある。国の重要文化財となっている小堀遠州作の庭が美しい寺だ。そこからしばらく登るとお茶屋がみえる。ちよど谷川の底の狭い空間に建てていて、通称水車と呼ばれているところだ。

水車は藩主板倉氏の別邸として建てられたが、方谷は藩主の許しをうけて、ここでもくらしていた。

その水車に河井継之助は宿泊りを許されたのである。水車の建物は最近再建されて、河井継之助の旅日記『塵壺』の一節が紹介されている。勿論、引き延ばしのパネル写真だが、継之助が方谷先生からそこで聞いたであ

ろう改革の要諦があらわされている。 明月(名月)の夜、方谷先生の話は面白く、その話がのちの長岡藩財政改革の骨格となったかと思うと感慨深いものがある。

道に戻って武家屋敷群の通りを抜けて、高梁高校の手前の山側に牛麓舎跡がある。今に民家が建ち並んでいるだけだが、かつては山田方谷先生が藩士・商人・農民を問わず学問を教えたところである。

藩政改革の原点に学問の基礎であり、実践あるのみだとした慧眼は、そこで生まれた。その反対側の臥牛山に登ると備中松山城にゆきつくことができる。大松山・小松山の頂上に松山城の天守閣があるが、まさに登山だ。

河井継之助が松山城に登城した記録はないが、今は観光のシンボルとなった松山城をどう仰ぎみていたのかを考えると面白い。 与謝野鉄幹・晶子の歌碑がある。

しらすらと溜れる霧の上はしる 吉備の古城の山の秋風。

(福川)

# 「塵壺」を読む

18 連載

昨夜の九ツ(午後十二時)に船に乗り、翌九月二十二日朝五ツ(午前八時)に尾道に着いた。もうそこは芸州(広島)藩の領内だと知らされた。

安芸の国広島藩は外様大名の浅野氏三十七万六千石は瀬戸内海の交通網を利用して、諸産業が繁栄していた。尾道はその瀬戸内海有数の水運の要地であった。

ところが継之助は旅日記「塵壺」に「湊と云うにはあらざれ共、家数も多く、往來の船の通路故、賑やかなり」と記している。「湊」ではないとした継之助には尾道はどう映ったのだろうか。

尾道は中世以来、年貢輸送の中継地または保管場(倉敷地)として使われることが多かった。湊湾施設も商港としての機能がおとつてはいたが、広島藩財政を支える重要な港町であったのだ。

継之助にしてみれば、湊はあらゆる物産を商う商港であらなければならぬのに、尾道は、往來の船が多い割り合いには、活発な商港ではなかった。

それは尾道が封建制の土台である米穀の輸送・保管に徹している、ちょうど、これから米の収穫

に入る直前の静かさを不思議な眼でみていたにほかならない。

継之助は三十七万六千石の大藩である広島藩の領国経営の一端を冷やかにみていたといつても良いと思う。

尾道には、その瀬戸内海水運を支える海運業者たちが建立した浄土寺という古寺が存在しているが、そこも見学しないで、その日のうちに三原へ向っている。

三原へは適当な船便がないので、本郷の庄屋が特別に仕立ててくれた船で向うことになった。

「これより三原へ、本郷の庄屋、舟を仕立て乗せ呉れける故、諸々見物して、四ツ過ぎ頃 小船に乗りて漕ぎ行くに、風は好く、船は早し。海岸、山陽往來の並木、糸崎の八幡社、左の島々、風景の好きには楽しみける」とある。

たぶん、穏やかな瀬戸内海の海岸に沿って小船は、ゆらりゆらりと進んだ。海岸の松並木(山陽道)を眺めながらの船旅は、継之助の心に潤いを与えたに違いない。糸崎の八幡社の赤い鳥居も見えたし、反対側の船べりからは小さな島々が点々と浮かんでいて、

継之助も満足の船旅であったと思われる。

継之助はのちに藩政改革の際、西蒲原方面にたびたび出没するが、それは信濃川を利用した河舟に乗ってゆくことが多かった。瀬戸内海での体験が、藩政改革に生かせる一端となったとしたら、塵壺の旅も有効的なものとなった。

三原には八ツ頃、着いたとある。八ツといえば、午後二時頃である。船旅は四時間近くかかったことになる。

ここでちよつと脇道にそれるが東洋文庫の安藤英男さんの「塵壺」には、安藤さんの校注が入っていて、八ツを正午としている。

時刻表を見誤ったか、尾道から三原までは二時間もあれば着くと考えたのかもしれない。「ここは芸州の家老、浅野雅楽の居城の由、三万石と云う事なり。城と云い町と云い、中々小大名の及ぶ処にあらず」とは、三万石の城下を継之助は直に見物し、その城の構えの大きさを堀の深さなどを記録した。

三原は浅野家の家老の知行所だと知って、継之助はその規模を探っているところが面白い。「城の堀に海魚多く遊び居り、鯉

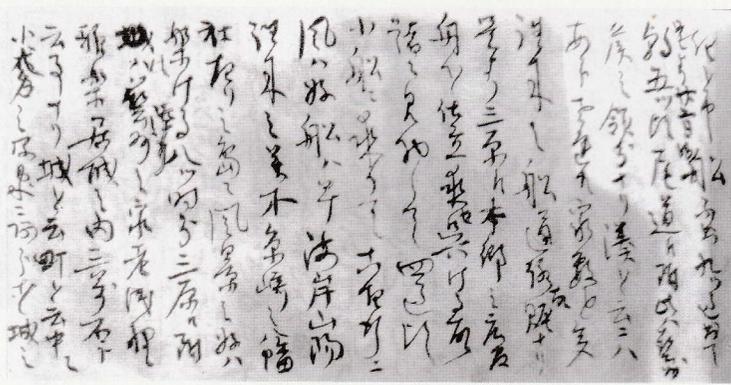
鮒の類」と観察しているから、三原城は海の城だったのだろう。

「城下はずれて、広平の野、綿多あり、ここは海を新開せし処の由」とあるは、継之助が綿畑が広がっていたのを見て、「ここは以前山か何かだったのか」を聞いたのだろう。山であれば低くすぎるので不思議に思い、農民に聞いたすと、果して以前は海を埋めたくて綿畑をつくったというのだ。これには継之助も感心したらしい。

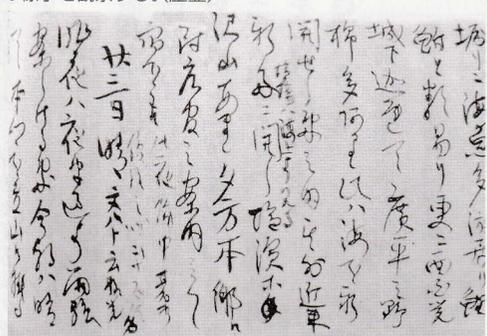
そして、その付近には塩浜(塩田)が点在していたというから、広島藩の農業改革・新田開発方法を三原で実見したことになる。

その夜、安芸の宿場の本郷に着いた。そこで案内してくれた庄屋の手配で宿に泊ることになった。そこでその夜、備中の碁打ちの文八という者が、俊治の咄をしてくれた。

俊治とは越後長岡城下の碁打ちの伊佐俊治のことらしい。(稲川)

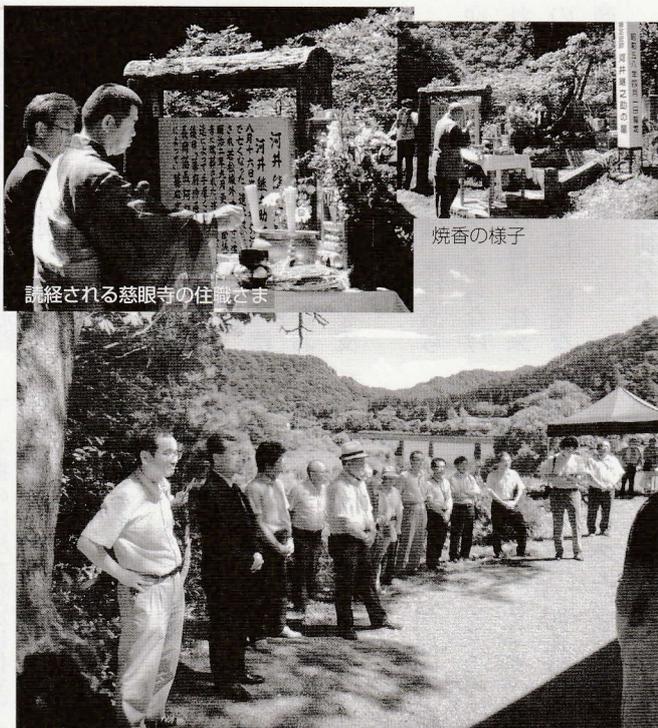


九月二十二日、尾道に到着し町の様子を觀察する。(塵壺)



城の堀や塩浜に関する記述。俊治の咄をしてくれた文八の名で二十日は締めくくられる。(塵壺)

### 只見塩沢墓前祭に参加して



焼香の様子

誦経される慈眼寺の住職さま

参列者の方々

慶応四年（一八六八）七月二十九日、新政府軍による長岡城への総攻撃が開始された際、二十五日の新町口の戦いで左ひざに被弾していた継之助。兵を指揮できる状態ではなく、山本帯刀がこれに駆け付けたが、総大将の負傷により士気の低下していた長岡藩兵は、総崩れとなった。長岡城は二度目の落城を迎える。

八十里越を抜け会津に入り再起を望まんとする継之助一行でしたが、左ひざの傷は悪化の一途を辿り、八月十六日、塩沢村の村医

矢沢宗益宅でそつと息を引き取り、手厚く葬られた。

その後現在に至るまで只見町塩沢地区の人々によって執り行われている八月十六日の墓前祭に、今年も記念館友の会十四名で参加してきました。

栃尾から守門に入って只見に続く六十里越の曲がりくねった道を行き到着した只見町。所々の民家の軒先に「棒」が立てられているのをバスの窓から目にしました。稲川館長によるとそれは昨年家人が亡くなった家が立てるもの

で、新盆の風習とのこと。長岡では見ない風習に、バス内は「へえ、そうなのか」の眩きに溢れていました。

午後一時から医王寺墓地で執り行われた墓前祭には多くの方々が参列しており、小千谷談判の舞台、小千谷慈眼寺の住職様による誦経が行われました。その後追悼の言葉に続き参列者が焼香を行い、初めて参加する墓前祭に勢い付いた私も見様見真似で人生初の焼香を行い、非常に有意義な経験をさせていただきました。

墓前祭終了後に只見の河井継之助記念館に向かった私たちは、各々見学を楽しみ、また現在只見の記念館で開催されている企画展『没後百周年〜外山脩造の原点は只見にあり〜』について談笑されている方々や、長岡の記念館にはない司馬遼太郎の書や『花神』で使用された衣装、継之助終焉の間を見て楽しんでおられる方もいました。

当日は天候に恵まれ、汗を拭うほどの暑さ。時おり吹く爽やかな風が、「あつちえーかったろー」と継之助による慰撫のようにも感じられたのです。（河出）

### 長岡開府400年特別番組「稲川明雄が語る今に活かせる長岡の歴史」を放送

平成三十（2018）年、長岡市は、初代長岡藩主・牧野忠成が長岡城主になった元和四（1618）年の開府からちょうど400年という歴史的な節目を迎えます。

長岡開府400年に向けた機運醸成、開府から今に至る長岡



「稲川明雄が語る今に活かせる長岡の歴史」を放送

の歴史や先人たちの知見を市民に広く紹介し、発信するため、長岡市は、九月三日（土）にエヌ・シー・ティ（ケーブルテレビ）で、市政広報テレビ番組「稲川明雄が語る 今に活かせる長岡の歴史」を放送しました。

河井継之助記念館の稲川明雄館長が出演されています。第1回放送のテーマは「初代藩主・牧野忠成」と「常在戦場」。長岡市ホームページから、本編（動画）をご覧いただけます。

#### ●問い合わせ

長岡市情報発信企画課  
0258-3912345



↑長岡市HPから本編（動画）をご覧いただけます。

#### ●長岡藩士殉節弔霊祭

九月九日に長岡藩士殉節弔霊祭が福島県会津若松市の本光寺で執り行われました。戊辰戦争時に会津城下に援軍にきた長岡藩大隊長の山本帯刀以下四十三名が本光寺の墓地に眠っており、毎年弔われています。

弔霊祭に参列する前に、白虎隊自刃の地「飯盛山」へ立ち寄りました。白虎隊は十六歳から十七歳の少年達で編成され、なかには志願して十五歳で出陣した者もあり、幼い少年達が自刃したことが心痛みました。

弔霊祭は顕彰会の齋藤巖副会



白虎隊士自刃之址



慰霊の剣舞



自刃之址より鶴ヶ城を望む



長岡藩士殉節の碑(飯寺村)

長の挨拶で開会し、小沼慶八会長が先人の思いを引き継いでいきたい旨を話されました。本堂の参道で吟詠に合わせて慰霊の剣舞が披露され、そして長岡藩士殉節の碑に線香を手向けました。

今回の弔霊祭等に行ったことで戊辰戦争をより学ぶこともでき、次の世代に引き継ぐ大切さ

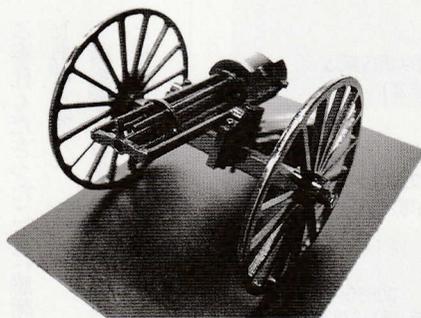
も実感しました。当記念館には小さなお子さんや学生、年配の方など幅広い層の方々が来館されます。河井継之助の功績や精神を引き継ぐ為に、今後も記念館は情報を発信する場でないければならないと改めて感じました。

(石原)

### 当館展示品が司馬遼太郎展に出品されます！

当館に展示されているガトリング砲のミニチュアが、今年の十月二十二日より産経新聞社主催の公益財団法人 司馬遼太郎記念財団監修で開催される「没後二十年 司馬遼太郎展―二十一世紀「未来の街角で」に展示されることとなりました。

この展示会は司馬遼太郎の遺



ガトリング砲のミニチュア

#### 展示会日程

- 平成28年10月22日～12月4日  
会場：福岡・北九州市立文学館
- 平成28年12月14日～12月25日  
会場：大阪・阪神百貨店
- 平成29年4月1日～5月25日  
会場：高知県立文学館
- 平成29年6月2日～7月2日  
会場：横浜・そごう美術館
- 平成29年9月16日～10月15日  
会場：愛媛県美術館
- 平成29年10月21日～12月10日  
会場：兵庫・姫路文学館

した作品、自筆原稿や書画をはじめ、作品に関連する歴史資料などが展示され、継之助に関するものは当館のガトリング砲の他にも多数展示されるようです。

会期・会場は次の通りとなります。司馬遼太郎ファン、そして「峠」継之助ファンの皆さん、是非足を運んでみてください。(河出)

### 記念館日誌 某月某日

長岡まつりも終わり、日常を取り戻した記念館は、夏休みでご家族連れのお客様が目立つようになりました。そんなある日、横浜からご両親と一緒に小学一年生の宗将君という男の子が来館されました。なにやら、芳名台の辺りでもじもじと落ち着かない様子。受付付近にいた職員に質問をしています。どうやら、パークラフトのゆるキャラが気に入ったらしく、どうしても欲しいキャラクターがあるとのこと。長岡市が市町村合併十周年を記念し配布したもので、職員が十一種類の十一体を作り飾ってあったのです。確かに其々個性があり、愛嬌あふれる表情をしています。その中で宗将君がどうしても欲しいと言っていたキャラクターは、みしまの「みしまる太くん」です。なぜならカッコイイからだそうです。得意気に記念撮影に応じてくださいました。

(柴田)



### ●記念館オリジナル ポストカード販売中!

(5枚組・パッケージ付300円) 郵送も承ります。



### おしらせ

●今泉鐸次郎著「河井継之助傳」を読む会  
第2・4月曜日 午後1時～3時

●楽しい詩吟教室  
第1・3月曜日 午前10時～11時30分

●各講座実施中!  
お気軽にお問合せください。

### 総会・講演会・懇親会報告

平成二十八年四月二十三日、今年度の総会・講演会・懇親会が開催されました。

講演会では講師に森民夫氏をお迎えして演題「河井継之助と地方創生」を講演頂き、森氏の幼少期のエピソードなどを交え、笑いの起こる一場面もありました。

懇親会では参加された方々が詩吟教室の皆さんの「長岡城の歌」に耳を傾けながら同席になった方や顔見知りの方との交流を楽しんでいるようでした。(河出)



詩吟の方々による吟詠



懇親会風景



講演される森民夫氏

### 河井継之助記念館 友の会について

会員の交流や情報交換を通して継之助について学び親しみ、記念館を応援する会です。

●会員数/正会員:508名/協賛会員:47名(9/6現在)

●特典/①入会時に徽章贈呈 ②友の会会報「峠」配布 ③交流研修旅行の案内・参加 ④催事案内・参加

会員募集中

●入会手続き(入会金千円が必要となります)

- ①申込書に入会金と会費を添えて、事務局へ持参。
- ②申込書を事務局へ送り(郵送、FAX)、入会金と会費は銀行振込または郵便振込で納入。(手数料は本人負担となります)

●会費 ※会計年度は3月31日まで

- ・入会金/千円(新規入会時のみ)
- ・年会費/①正会員/(ア)小中学生:500円 (イ)高校生以上:2千円 ②協賛会員/一口5千円(法人の他、個人でも可)

●口座について

・加入者名/ 河井継之助記念館友の会	・口座番号/ 郵便局 00560-9-96432 長岡信用金庫本店営業部 普1032829 北越銀行本店 普1764663 大光銀行本店 普3011256 第四銀行長岡営業部 普1560562
-----------------------	---

※郵便局の場合は手数料無料の払込用紙が事務局にありますのでご利用ください。

●友の会事務局/河井継之助記念館

友の会ホームページアドレス <http://tsuginosuke.net/>

### 新入会員ご紹介

(平成28年3月1日~平成28年9月6日現在)

土屋 徹	神奈川県藤沢市	星野 晃男	新潟県長岡市	長谷川 浩	新潟県三島郡
山田 博文	愛知県東海市	金山 洋	新潟県長岡市	粉川 一夫	新潟県長岡市
外山 和弘	新潟県長岡市	田中 康之	神奈川県川崎市	行徳 哲男	東京都渋谷区
加野 雄三	新潟県長岡市	梅津 恵一	埼玉県南埼玉郡	道場 俊平	東京都渋谷区
外間 哲雄	沖縄県うるま市	吉野 晴記	新潟県阿賀野市	大関 道義	新潟県長岡市
桑江 弘	沖縄県沖縄市	小越 忠教	新潟県長岡市	阿部 明	新潟県長岡市
鈴木折美子	新潟県長岡市	泉 純一	栃木県宇都宮市	株JTB関東法人営業長岡支店	新潟県長岡市
西岡 富雄	新潟県長岡市	小野 喜明	愛知県豊川市		

以上23名(敬称略)

### 今後の広報活動に

友の会報「峠」も二十号を迎えました。この際、今後の会報編集・発刊の方針について、会員の皆様とご協議をさせていただきま

す。「峠」は河井継之助記念館友の会が発刊する情報誌です。友の会は、河井継之助記念館の運営支援を目的に設立されたものですから、情報の共有がもつとも大切なものだと思います。

しかし、今号は「会員の声」の欄の募集を諸般の事情で見送りませんでした。また人手がたりず、なかなか原稿が集まりませんでした。

### もとより、友の会報は友の会幹

事会の下部組織である広報委員会が発刊する小誌です。ところが実態は河井継之助記念館の臨時職員・パートタイム職員の努力で発刊しつづけてまいりました。そのうえに、このたび、デザインを担当してくださった石原デザイン室から、次号からの協力のご辞退の話しもありました。それはご事情もあり致し方がない次第だと存じます。本当に長い間、会報のためにご奉仕くださったことに感謝を申しあげます。

編集等は事務局の当然の業務だと皆様は思いでしょうが、受付

業務外で不規則勤務の臨時職員体制では、相当の負担になっている事実があります。第二十一号は大幅なレイアウト・内容の改革が必ずです。これまでの経緯における不都合は事務局長の責任であることは重々承知しております。しかしながら、従来の編集運営では続刊が無理という瀬戸際にきました。そこで、会員皆様の建設的なご意見にたまわりたいと思っております。FAXでもメールでもお寄せください。必ずご返答をしますの

(稲川)

### 編集後記

●四年に一度の祭典、夏季オリンピックがブラジルのリオデジャネイロで開催され、史上最多の二百五十カ国、地域が参加し、一万一千人を超えるアスリートが執戦を繰り広げました。家族や監督、スタッフらへの感謝が、重圧と戦いながらも諦めない気持ちの原動力となり、過去最多のメダル数となりました。最高峰の舞台にかける選手たちにはそれぞれ感動のドラマがあり、胸が熱くなりました。選手達の活躍は次世代への橋渡しとなり、四年後の東京オリンピックの『新たな希望』を作ってくれたと思います。河井継之助には時代を見通す先見性や改革の実行力など学ばべき点が多くあります。現代社会にも通じる『希望の星』として、人間的な魅力があります。若者や外国人にも継之助のメッセージを伝えられるよう、より多くの方々をお迎えしたいと思います。

(高岡)

編集人・稲川明雄 河出知美 柴田三枝子

黒田清江 島岡真由美  
金澤奈生子 石原真紀  
猪本剛六 渡邊静江 駒形豊  
関口トシ子 高木春夫 廣井晃  
羽賀龍介 長谷川雅泰  
堀口晴夫 山村雅隆 脇屋雄介  
渡辺千雅

構成 月刊「峠」編集部  
印刷 高速印刷株式会社